

# 平成 28 年度 登録建築板金基幹技能者講習試験

(福島県)

- 1 年月日 平成 28 年 9 月 9 日 (金)
- 2 会場 福島県郡山市田村町金屋下夕川原 167-2  
郡山市東部研修センター
- 3 試験時間 60 分
- 4 問題数 30 問 (四肢択一式)
- 5 注意事項
  - (1)係員の指示があるまで、問題を開かないで下さい。
  - (2)解答用紙に、所属組合名・受講番号・氏名を必ず記入して下さい。
  - (3)係員の試験開始の合図で始めて下さい。
  - (4)正解を一つ選択して解答して下さい。二つ以上解答した場合は誤答となります。
  - (5)解答は、必ず解答用紙に記入して下さい。
  - (6)携帯電話は、試験前には必ず電源を切って下さい。
  - (7)質問がある場合は、速やかに挙手して係員の指示に従って下さい。  
但し、試験問題の内容や漢字の読み方等に関する質問には、お答えできません。
  - (8)試験終了時刻前に退席する場合 (試験開始から 30 分経過後より可能) は、挙手して係員の指示に従って下さい。トイレ等の一時的な離席も同様です。

終了の合図があったら筆記用具を置き、係員の指示に従って下さい。

## 平成28年度 登録建築板金基幹技能者講習試験問題

平成28年9月9日出題

問1 登録基幹技能者の役割として誤っているものはどれか

- イ 現場の状況に応じた施工方法等の提案、調整等を行う
- ロ 現場の作業を効率的に行うための技能者の適切な配置、作業方法、作業手順等の構成を行う
- ハ 生産グループ内の技能者である立場に徹して作業を行う
- ニ 前行程・後行程に配慮した他の職長との連絡・調整を行う

問2 管理者の効果的な話し方で、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 話すことは重要だという認識を持つこと
- ロ 自信を持ち熱意を込めて話す
- ハ 話しは長々とする
- ニ 話すテーマをよく理解しておく

問3 環境保全計画の検討事項について、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 人工環境の保全
- ロ 公害の防止
- ハ 近隣環境の保全
- ニ 労働環境の保全

問4 元方安全衛生管理者の必要な資格について、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 大学、高専の理科系卒業後3年以上安全衛生の実務経験者
- ロ 高校の理科系卒業後5年以上安全衛生の実務経験者
- ハ 普通高校を卒業後7年以上安全衛生の実務経験者
- ニ 厚生労働大臣の定める者

問5 登録基幹技能者に求められる能力について、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 十分な経験を有し、軽度の作業能力
- ロ 出来上がりの点検、工事の是正ができる
- ハ 技術の進展等に的確に対応した知識
- ニ 現場をまとめ、体系だった効率的な作業を実施するための管理能力

問6 公共工事の品質確保に当たって、次の記述で誤っているものはどれか。

- イ 入札及び契約の透明性・競争の公正性、不正行為の排除の徹底、受注者としての適格性を有しない建設業者の排除などの入札及び契約の適正化が図られよう配慮されなければならない。
- ロ 民間事業者の能力の適切な評価、その入札・契約への適切な反映、民間事業者の積極的な技術提案及び創意工夫が活用されること等により、民間事業者の能力が活用されよう配慮されなければならない。
- ハ 請負契約の当事者の対等な立場での合意による公正な契約の締結、その信義に従った誠実な履行がなされるようにする必要はない。
- ニ 公共工事に関する調査・設計の品質が、公共工事の品質確保を図る上で重要な役割を果たすことにかんがみ、調査・設計の品質が確保されるようにしなければならない。

問7 コンプライアンスの意味として正しいものはどれか

- イ 公正・公平に業務遂行する。法律を遵守する
- ロ 責任を持った約束・公約・確約
- ハ 互いに意思や感情、思考を伝達し合うこと
- ニ 概念・観念

問 8 安全衛生管理体制に関する、次の記述で誤っているものはどれか。

- イ 労働安全衛生法は、事業場（店社）や現場の規模ごとに安全衛生管理体制が定められている。
- ロ 事業場ごとの安全衛生管理体制では、規模（直用労働者数）に応じて総括安全衛生管理者、安全管理者、衛生管理者等の選任や安全・衛生委員会の設置が必要となる。
- ハ 直用労働者が10人～49人の中小規模の事業場であれば、事業主が安全衛生推進者を選任して、安全衛生の業務を担当させることになる。
- ニ 10人以下の事業場では、安全衛生管理体制は定められていませんが、10人～49人規模の事業場に準じた安全衛生管理体制とする必要はない。

問 9 労働安全衛生法はいつから確立されましたか。

- イ 昭和22年
- ロ 昭和47年
- ハ 昭和60年
- ニ 平成元年

問 10 住居の外部環境の考えとして、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- イ 景観
- ロ 日当たり
- ハ 風通し
- ニ 水はけ

問 11 改修工法について、次の記述で誤っているものはどれか。

- イ 既存塗り替え工法は、既存の屋根ふき材又は外壁材表面の劣化部分を除去し、耐用年数や遮熱性能の向上を重視した全面的な塗り替えるもの。
- ロ 既存被覆工法（カバー工法）は、既存の屋根ふき材等を撤去せずに、その上から金具等を介して新規の仕上げ材を機械的に固定するもの。
- ハ 既存ふき替え工法は、既存の屋根ふき材等を撤去した後、新規の仕上げ材を施工するもの。
- ニ 既存塗り替え工法は、既存被覆工法や既存ふき替え工法よりも比較的高価な改修コストで実施できると考えられる。

問 1 2 屋根葺き材の適用勾配について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- イ 一文字葺 4 / 1 0 以上
- ロ 粘土瓦葺 4 / 1 0 以上
- ハ 心木なし瓦棒葺 5 / 1 0 0 以上
- ニ 心木あり瓦棒葺 1 / 1 0 以上

問 1 3 設計時に検討される性能として、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- イ 太陽光の紫外線領域を反射し表面温度上昇を有効に制御できること。
- ロ 外装面の輻射熱及び内外の気温差による伝熱を有効に遮断できること。
- ハ 建築物内外の音源から発生する空気伝播音を有効に遮断できること。
- ニ 室内騒音レベルの上昇を許容限度内に留められること。

問 1 4 保証対象部位と保証期間について、次の記述のうち誤っているのはどれか。

- イ 屋根 … 1 0 年以下
- ロ 太陽光発電架台設置 … 1 0 年以下
- ハ 外装 … 5 年以下
- ニ 雨押え・水切り … 5 年以下

問 1 5 設計者、総合工事業者、専門工事業者、製品供給業者の各関係主体どうしが必要な

役割として不適切なものはどれか。

- イ 協議
- ロ 承諾
- ハ 報告
- ニ 点検

問 1 6 鋼板の塗装製品の初期塗り替え時期の目安として、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- イ ポリエステル系は一般的に 7～9 年
- ロ 塩ビ樹脂系は一般的に 10 年
- ハ フッ素樹脂系は一般的に 20～22 年
- ニ 耐酸被膜は一般的に 20～25 年

問 1 7 日本家屋の屋根の形状の中で、あまり見られないのはどれか。

- イ 入母屋
- ロ 寄棟
- ハ 腰折れ
- ニ 切妻

問 1 8 折板屋根のタイトフレームの施工に関する記述で誤っているものはどれか。

- イ 風圧力は屋根の形状、高さ及び部位により異なるので、タイトフレーム受け梁の間隔は風圧力の大きさに応じて屋根材の強度検討を行い設定する。
- ロ タイトフレームの構造部材に溶接する前に受け梁の不陸の有無を確認し、不具合があれば総合工事業者に是正を求めることが必要である。
- ハ タイトフレーム受け梁の幅は、溶接を行うためにタイトフレーム幅(W)+2×タイトフレーム板厚(t)以上の数値を目安とし、厚さは原則としてタイトフレームの板厚以上とする。
- ニ 小梁と大梁が交差する段差部や大梁どうしの接合部には板厚 1.6mm 以上のリップ溝形鋼や平鋼等のタイトフレーム受けを設ける。

問 1 9 一般に屋根・壁の改修目的として、次の記述で誤っているものはどれか。

- イ 劣化対策・長寿命化。
- ロ 経済性・安全性の向上。
- ハ 室内環境の改善。
- ニ 建築物用途の変更。

問20 スレート屋根改修におけるアスベスト対策について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- イ 石綿作業主任者の選任と作業員への特別教育を実施する。
- ロ レベル3対応の防塵マスクや通勤等と同じ作業衣を着用する。
- ハ 関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ニ 廃スレートは専門業者に委託し、産業廃棄物として安定型最終処分場で処理する。

問21 提出書類の確認について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- イ 施工要領書
- ロ 施工図
- ハ 材料検査表
- ニ 地質調査

問22 一文字ぶきの納めに関する内容で、次の記述で誤っているものはどれか。

- イ 銅板・鋼板ぶきを問わず、軒先の納めには唐草を用いるが、唐草の継手には、爪掛け式とはぜ掛け式がある。
- ロ ふき板の加工には2通りあり、はぜ部に切込みを入れなかつかみ込みぶきと切込みを入れる爪切りぶきである。
- ハ 爪きりぶきは、はぜを切れ込むことになるので、雨仕舞の点ではつかみ込みぶきの方が劣っているといえる。
- ニ ふき板には熱による伸縮を吸収するエキスパンションジョイントを桁行5m～6mごとに1か所設けるようにする。

問23 屋根の改修工事で、設計・見積り時の調査項目として、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- イ 屋根材の種類及び板厚。
- ロ 屋根材の劣化状態は問せず。
- ハ 心木の有無と間隔。
- ニ 軒・棟の役物の納まり寸法。

問 2 4 折板屋根のけらばの納め方で誤っているものはどれか。

- イ けらばは、端部用タイトフレームによって補強する。
- ロ けらば包みとして用いる鋼板は、折板と同等の品質を有するものとする。
- ハ けらば包みの加工長さは、概ね 1m 以下として継手箇所を増やす。
- ニ けらば包みどうしの重ね部の留め付けは細目ねじ又は耐水リベットによるものとする。

問 2 5 外壁の各部の納まりに必要な胴縁について誤っているものはどれか。

- イ 出隅部には外壁材の端部、役物、下地ボードを固定するために外壁材の縦張り、横張り工法に関わらず縦胴縁(角形鋼管)を設けることが望ましい。
- ロ 入隅部には、縦張り工法においては特別な場合を除いて縦胴縁は不要である。
- ハ パラペットの天端の胴縁には笠木及び捨て笠木の取り付けに際し障害となるので、ボルトやナットが上部へ出ないようにすることが必要である。
- ニ サッシ、ドア、ガラリ、シャッター等の建具との取り合い部は、開口周辺に水切や外壁材端部を固定するために胴縁の配置は不要である。

問 2 6 維持保全に関する用語の説明で誤っているものはどれか。

- イ 日常点検 = 対象物が日常運用されているときに可能な点検。
- ロ 定期点検 = 周期を定めて対象物を休止させたりして行う点検。
- ハ 保守 = 消耗部品の取り替えや汚れの除去等、対象物の機能の維持と耐久性確保のために行う作業。
- ニ 修繕 = 劣化又は陳腐化した部材・部品等の機能・性能・外観を現状あるいは初期の水準以上の状態にすること。



問 2 7 外壁の下地構法として次の記述のうち誤っているものはどれか。

- イ 外壁の下地に用いる胴縁は、適切な強度、剛性並びに耐久性を有するものとしなければならない。
- ロ 胴縁の取り付けは外壁材に係わらず450mmとし、防耐火性能等が必要な場合にはその仕様に準ずる。
- ハ 外壁各部の取り合いには、外壁材の端部や役物等を固定するために適切に胴縁を配置する。
- ニ 胴縁の不陸その他の下地の不具合は、外壁の仕上げに影響を与えるので注意しなければならない。

問 2 8 横ぶき屋根施工について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- イ 中間継手の隙間（クリアランス）はいらない。
- ロ 葺き廻しぶきにするとロスが小さくすむ。
- ハ 千鳥葺きにすると材料のロスが多い事がある。
- ニ 谷部は屋根材をつかみ込で納める。

問 2 9 切妻屋根の風荷重について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- イ 隅角部で大きくなる。
- ロ 周縁部で大きくなる。
- ハ 棟端部は変わらない。
- ニ 軒先の吹上は2倍近くになる例もある。

問 3 0 建築構造の種類について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- イ 木質構造
- ロ RC構造
- ハ S構造
- ニ SRS構造